主張

八人の組合も 一万六千人の組合も

総評大会の「最低賃金制は実力を待つても闘いとるんだ」という固い決定は、その後下部に降り、地域にのびて行くに従つて、段々実を結び、昨年の十、十一月ごろになると、中小企業の動きはにわかに活発となつてきた。

「今日は組合結成」「明日は又別の組合が会社に要求する」という具合に、広汎に拡がつて行つた。そして十二月になると現行四千五百円最低の組合が、最低賃金八千円を経営者に要求する状態に発展した。

今各職場では賃上げや、その他色々な要求と共に最低賃金制に対する闘い方が、既に八千円以上を獲得している職場では「労働賃金を最低八千円にすることが明日の吾々の賃上げである」と、又支払能力もない零細企業では、最低賃金制と家内労働法案を手に「こうすれば当然八千円は出るはずだ」とシンケンに論ぜられている。

このように「ことしの闘いは中小企業の春闘」と云われる程、多くの問題を中小企業は投げかけている。

一方中小の経営者の中にも又、彼等の立場を好むと好まざるとにかかわらず明らかにせざるを得ない処に、時代は追いこんで来ている。

「なにかしら、大きい闘争のウネリが刻々と近づいているような気がする。それは〝柱〟だとか〝スケジュール〟だとかいうのでなく」といつたある記者の予言めいた言葉も、そのようなところからうなづける気がする。

しかし反面、資本家陣営は決してこのような情勢を見おとしてはいない。むしろ、このことあるを予想して長い時間をかけて、色々と手を打つてきている。

たとえばマス・コミ、会社官庁のPR、政党等々、これ等によつて打たれた色々の工作は決してそのとき、ところ限りではなく、絶が浮刻となり影刻となつて、遂には呼吸をするようにする程、彼等の宣伝は魔力的威力をもつている。

本期も正月早々から彼等は色々と手を打ちはじめている。

大地評はそれ等の動きに対しても十分事前に察知出来る機構も作りつつあるし、これ等を直ちに封圧出来る態勢も整備した。

雰囲気が切迫すればモツトデマや色々の策謀が行われるだろうが、労働者が企業のワクを乗り越え、ガツチリ腕を組み、敵階級と闘うなら、農民や中小企業者にも労働者の立場なり要求なりは理解されるだろうし、その中にこそ血のかよう巾広い闘いは組織されるであろうことを確信する。

永らく中小企業の中にスクツていた、封建性を踏み破つて立ち上つた労働者には、モウ日経連が云う賃金格差論等ではどうにもならなくなつてしまつた。

このような中で、総評が、低賃金によるダンピングだという世界の非難を解くための一面と、労働者を低賃金と労働強化から解放するという、二面を含めて採り上げた最低賃金制に対する方針は、世論から全面的に受け入れられ、四百万労働者の総力を挙げた闘いにまで発展して来た。

中小労組の賃上げ

弁当さげて一日七〇円

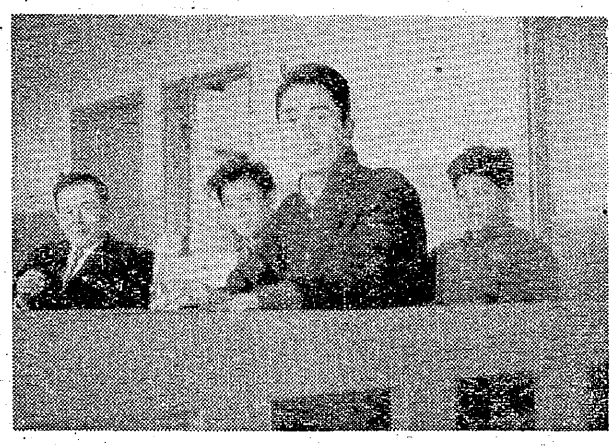
三月三日の春季要求貫徹総決起大会はいろんな行事を中止して全員参加しようと、着々準備が進められている。とくに昨年のくれ三池食品労組が最低賃金八千円の要求を会社に提出し、多くの成果をあげたので、これにしげきされ、会社ごとの最低賃金かくとくや、大牟田中小労組連合会結成の話し合いが数回にわたり進められている各組合の春闘の動きはつぎの通りである。

◇印刷労連

印刷労連（福山印刷、江崎印刷、重富印刷、印刷合同）では去る二十三日委員会を開き、最低賃金制組織強化、決起大会対策、とくに一日七〇円の女子従業員の賃上げを中心に話しを進め、三日以後それぞれの組合で（江崎印刷は賃上げずみ）要求額を決定することになつた。

◇合同労組

執行委部は昨年十二月、賃上げ一日十五円、家族手当の増額、精勤手当の復活その他七項目の要求をしており、去る二十三日組合総会を開き、今後の日程と強力な闘いを組むことを決め、三月三日の大会には全員参加を申し合せ、当日は平常作業日であるのを公休日とするよう会社に申し入れを決定した。



首切反対の交渉に臨んだ大牟田青果の役員（右端は首を切られた澁田君）

〝身分制、お断りだ〟

特徴ある三染のたたかい

三染労組はかねて会社側に対して従業員一人平均二千五百円の賃上げ、身分制撤廃、住宅手当、結婚祝金一万五千円、並びに結婚休暇の五日制（現在三日）を要求し、鋭意平和交渉によつて問題の解決に努力してきた。

右の要求に対して、会社側は賃上要求に対してだけ一千五百五十円を回答したにとどまり、身分制に対してはそれが三井の伝統でもあり、影響するところも大きいから〝として、この検討のためには時日を借してもらいたい、またその他の要求に対してはこれが一部の者にかたよる要求だからとして全面的に拒否の回答を寄せてきた。

三染労組は、右の回答に対しては全面的に強い反対を決定、スト権の集約も終り、いつ実力闘争に突入するか予測できない段階にある組合は、ひるがひるで決起大会を夜は夜で二、三番勤務者へのオルグを、また社宅に対してはその隣組を単位とする懇談会を、というように徹底的に工作するところがあつた。そしていま実力行使の前に、団結を固めて立つている。

同労組の春季闘争の特徴点は、なんといつても身分制の撤廃を満だとして再交渉を申し入れている。また理事側に賃金八、〇〇〇円の法制化について政府に要求するよう具体的な準備が進められている。

三和化学では一日五十円の賃上げを現在職場の討議に附しており、近く組合総会で決定する。

大天地労組は合労加入後第一回支部総会を開き、有給休暇の出勤取り扱いやその他を決定した。

大牟田青果支部は昨夏一、五〇〇円の賃上げに成功したが、企業別最低賃金、期末手当、不当解雇撤回を柱に要求内容の職場討議に入つているが、近く支部総会を決定し、中小労組の闘いの火ぶたを切ろうとしている。

朝の貨車入替について

私は市内本町に居住し某官庁に務めていますが、毎朝いやな思いをしていることがあります。

それは有明町の「踏切りの入替え」で長く待たされることです。朝から「入替え」に出あえばほとんど遅刻になるといつてもいいくらいです。ここの踏切りを利用している大半は労働者であり、遅刻したときの憤満やるせない気持はみんな同じだと思います。オートメーションということが宣伝されている折でもあり、国鉄当局に高架線の架設なりあるいはその他、なんとか考慮していただきたいものです。（一労働者）

▲みんなが云いたい事をみんなが聞くべきだ▲一口が一生を明るくする▲天性は苦労の中から

共同デスクの再刊を喜ぶ

まづ始めに地評傘下の一組合員として、この共同デスクと再会出来たことを嬉しく思うものである

おれの職場にこの共同デスクがはたと姿を見せなくなつてから、もう一年位になるのではないだろうか。総評西の拠点とさえ云われる地評傘下に、一員として起伏しているおれとして、ほこりをいだいている。そして且つ又、おれ達組合員一人一人に力と勇気を与えてくれる。鉄のきずなのような地評でもある。一昨年の暮、おれ達の期闘に五千人のデモを始め物心両面のおしみなき支援と激励に、おれ達の闘志に百倍の力を与えてくれた。

その地評の共同デスクが、今春賃闘をけいきに再刊出来た事は、ほんとうに喜びにたえない。

いままで発行出来なかつた理由が何んであつたか知らないけど、それはどうでもよい、今後、それらを乗りこえて、休みなく大きく発展し、成長して行くならば。

一組合員として期待と共にいつまでも見守つて行くつもりである今春賃闘を勝抜く決意を新たに誓めながら…。

（三合労組一組合員）

大地評で地域の掲示板を

大地評春季闘争方針では、こんど新しく戦術委員会を設置したり情報担当執行委員を設けるなど、情報活動面に相当力をいれられているようですが、ついでといつてはごくいがありますが、ひとつお願いがあります。というのは大地評で、できれば地域における各単産の掲示個所を一括し、各地域毎に掲示板をつくつていただけないだろうかということです。

これは予算面とも関連してくるし、すぐという訳にはいかないでしようが、闘争中西鉄、国鉄通勤者で組合からの連絡が十分とれず困つたことがあるからです。

「何処に組合は掲示したのか」と聞くと「各駅の構内掲示は禁ぜられているので、附近の電柱にはつた」という組合の答弁がいつもくりかえされていますが、大地評で何処かまとめてつくつていただいたら、こんなことはなくなると思います。

賃上げ三、三〇〇円

30年勤続で二五万円増額

三合労組では、賃上げ、一人平均三、三〇〇円と退職金約二十五万円増額を二月一日会社え要求、十五日に回答を求めていた。

これに対し会社は今月中に解決したいと回答を延期して来た。組合は会社の回答期日が不明確だとして二十日までの期限付再回答を申し入れたが、これも延期すると回答しただけであり、職場の組合員は大きな変ぼうをみせている。

国鉄の給与

（三煉一組合員）

国鉄の俸給は一万七千五百円平均と某系の宣伝機関から放送していますが、どう考えたつてそうなりません。一例をお話しますと勤続三十年の六人家族で本俸が二万一千円です。

勤続十年位になると三人家族で一万一千二百円にしかなりません

このような状態ですから、若い者は共かせぎや、内職をしなければ生活もたつて行きません。

当局はこのようなことには目をつぶつてもつぱら某系会社の宣伝機関を通じて、国鉄の組合員の給与がさもいいような宣伝をしています。そこで私共の職場では、こんどの春闘ではトコトンまで闘うということを決定しました。

—国鉄組合員—

詰合つて闘いへ

オートメに食われる職場

三菱労組港務支部の港駅分会では仕事となつている。このことから明らかに、職員は職場の支配者であり、従業員は職場の被支配者となつていることを、物語つている。

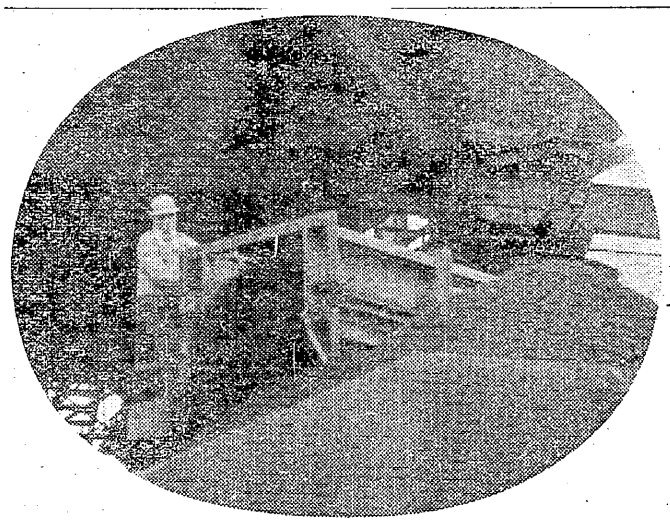
だから、三染の従業員はいつている。「個人点の、のうなるなら、職員さんたちあひまでしよんなかろもん。今月はあれば一・五にしてやろう、あいつは〇・八にしてやろうちゆう楽しみのなかどつなるけんなア。楽しまるるこつちはたまつたもんじやなかバン」と。

さいきん新しく完成した四号ベルト（三川鉱の貯炭槽から石炭積出口までベルトを一本増設、計二本となる）のため、仕事はうんと増え、おまけに収入は減るという現象がおきている。

このため港駅分会では去る十七日午後一時から駅の運炭手全員が港友クラブに集つて、職場の再点検をするとともに、こんどう闘つたらよいかと対策にのりだした。

ここの作業は主に三川鉱の石炭輸送で、それには鉄道輸送とベルト輸送（船まで直行でベルト輸送したり、直行で貯炭する）がある。

問題になつた四号ベルトは全体の石炭輸送強化をネラつたもので、これができたため貨車や炭車に石炭を積む運炭手の人たちのしごとは大きな変ぼうをみせている。



労働強化に追やられる撰炭手の人たち

賃金級地引上げ運動を展開

近く中央に陳情団派遣

失対の賃金は、全国平均二八二円であるが、大牟田は地域差のために二五〇円に切下げられている。昨年十二月に生活保護級地が三級地から二級地に引上げられたのを機会に、全日自労大牟田分会では賃金級地引上げの運動を展開することを決め、一月末より署名運動を始めた。組合員は勿論のこと、大地評傘下の組合の協力を得て、目標の二万名署名に対し、二月二十五日現在一万八千の署名が分会本部によせられている。賃金級地引上げの問題は自分だけに関係したことではなく、職種別賃金（大工、左官、石工、土工など）にも影響するので、日雇労働者全般の要求として、細谷市長も、今年の市政の課題としてとりくんでおり近く自労では、なげなしの組合費をつぎこんで、上京団をつくり、中央に陳情することになつている

三井金属全山の臨時工ベース設定へ

三煉労組では、いままで臨時工問題について、三金連・金鉱の運動方針に基きいろいろ努力していたが、さる二月八日の大会で三井金属全山の臨時工のベース設定を決定、そのあと開かれた三金連大会にこの件を提案していたが、中央としてもとりあげて調査研究にのりだすことになつた。

この問題は、一職場の常会で臨時工から直雇工へ移行する際の勤続年数通算ということが組合員の話題となり、年数通算も必要だが現在臨時工は、各事業所まちまちの労働条件であり、この統一こそ先決問題だということでとりあげられたもの。

はこの会社の不誠意な態度に「執行部は手ぬるい」「早くスト権をとれ」などとの不満の声が高くなり、二十三日の団交で組合としてもこれ以上会社の誠意をまてないので具体的行動に入ると会社に申し入れた。会社はこれ以上のばせないと見て、二十七日賃金一、六〇二円アップ、退職金は停年退職と会社都合退職の割増の現行二割を四割にする旨回答した。